

OR学会電子掲示板の拡充を!

——兵庫県南部地震のひとつの教訓

真鍋 龍太郎 (文教大学)

ORメイリング・リストへの安否情報の掲示

1月17日の兵庫県南部地震の後にインターネットのOR学会のメイリング・リストに自分の手許に入った被災地にお住いのOR学会員の方々の地震後の消息を次のような形で掲示した。(前文などはここでは省略)

○秋葉博さん、青沼龍雄さん、加藤直樹さん、有馬昌宏さん(神戸商大管理科学科)の皆さんはご無事です。大学は建物は壊れなかったが内部はかなり混乱、コンピュータも当分使えない、とのこと。(22日朝、青沼さんとの電話で確認)

○辻新六さん(流通科学大)ご無事。自宅も壊れなかったが中はめっちゃめっちゃ。(20日ご本人から電話)

最初は、このように自分の旧知の方々の消息を中心に出していましたが、この掲示は次のように結んでおいた。

このほかの阪神地区のOR学会関係者ご自身の消息、ご家族、自宅、勤務先などの様子が分かった方は(情報源も添えて)真鍋宛に、ファックス、ニフティサーブ、Emailなどでお知らせ下さい。小生のところでまとめて掲示していきます。元神戸市民としてこの形でお役に立ちたいと思います。

これを見て未知の方でもEmailを下さる方々があつて、1月22日から24日の間に合計6回の掲示をして、延べ36名の方々の幸い無事のご消息をお伝えできた。(ご存知の方も多いでしょうからと、非会員で被災された方の訃報がお一方だけあつた)。特に23日は月曜で出勤してから読んだ方々からの何通ものメールがあり、それらを読んで掲示用に編集して発信することに1日の大半を費やした。25日からはメールも来なくなったので、2月1日には終了とご協力のお礼の掲示をした。

これらについて小生あてに直接メールや電話でお礼を言って下さる方が何人かあり、いくらかは皆さんのお役に立てたのかなと思つている。このOR誌の編集委員長もお読みになっていたようで、もう一度ここに登場ということになった。

自分に何ができるか?

この掲示を始めたのはいくつかのきっかけがあつた。「真鍋さん、神戸にお住まいでしたね。お知り合いはいかがでしたか?」と、地震のあとの2、3日に周囲の人々によく声を掛けられた。といつてもまったく、なすすべがなかったから、「心配しているだけで何も分からないのですよ」しか言えなかつた。

8年前までとはいえ14年間神戸商大に勤め神戸市民であつた自分としては、そこにまだ居たら直撃されていたわけだし、多くの知人がいるし、見慣れたビルが壊れたり、街がつぶれているのをテレビで見て、他人ごととは思えなかつた。幼稚園前からそれぞれ中学卒業、高校卒業まで神戸に住んでおり、いわば神戸っ子のつもりでいる2人の娘たちも、生田神社の社殿が完全につぶれて屋根が地面に落ちている写真を見て、青い顔をして声も出なかつた。その写真には人っ子1人も写つてなかつたが、何度か訪れてその実際の大きさを知っており、それが潰れたことの恐ろしさが想像できたのであろう。そんな中で、首都圏にいながら自分として被災地の方たちのためにこの際何ができるのだろうか、といろいろ考えていた。

ラジオでは被災地への電話は控えるようにと言いつけていた。実際に2、3度ダイヤルしてみたが無駄だつた。翌日あたりに次のようなNTTからのお願いが放送された。被災地の外からよりも中から外への方が電話が通じやすいので、被災地の人から被災地外へ電話がきたら無事だということなどをそれを受けた人があちこちに伝えるようにしてもらいたいということだつた。

もとの同僚で神戸の流通科学大学の辻新六さんに、地震以前からの用事もあつたので、届くかどうか疑いながら自宅あてにファックスを打つておいた。他の人への連絡もしますよ、ということも書いておいた。これが何とか届いたようで、彼からは20日に電話が入り一安心。

もう電話も通ずるかなと、21日朝に青沼さんに電話をしたら1回で通じ奥さんもご本人もお元気で大安心。そして神戸商大のOR関係の方々の無事も分かつた。

前に書いたようなことがあつたので、自分1人でこの消息情報を暖めてはいけないなと思ひ、OR学会のメイリング・リストに載せることを思いついた。と言つても、読むことはあつても発信したことがなかつたので、だいたい前にあつたアドレスの変更も知らず、21日の土曜日に発信したものが届かずに戻つてきてしまい、

それまでに受けた掲示のログを見たり、人に確かめたりして、22日になって第1報を出した。

安否情報ネットとしてのネットワーク

これを始める時に、被災地域に在住のすべての方々の消息を掴むことはできないのに、一部の方々の消息のみを出していいのだろうかと一寸悩んだ。しかし、他にも心配している人たちがいるのだからと思い、手もとで分かる方だけをと断った上で、思い切って掲示してしまった。こちらから積極的に電話などをしてないので、被災地の方でもこの情報に入れてない方々がかなりあり申し訳なく思っています。

NHK・FMも安否情報を何万通かの情報が寄せられて放送されたが、これは聞き逃したらお終いだから、インターネットやパソコン通信はかなり役に立つ。ニフティ・サーブも地震情報専用の無料のメニューを直ぐに設けた。しかし不特定多数ではなくOR学会員といった限られたコミュニティ内ではこの掲示板がかなり有効であろう。ただ誰かがいざという時に面倒をみなくてははいけない。予期できないことであってもボランティアに誰かがキーになれる雰囲気を作っておく必要がある。

被災地からのアクセス？

今回の状況を、被災地の立場で、といっても何とか電話やパソコンが使えるとしてだが、考えるといくつかの問題点があったようだ。身近なことから言うと、

(1) 自宅や勤務先の被害でインターネットやパソコン通信のアクセス・ポイントの被害でアクセスできなかった。

パソコンは、意外に強かったようで、倒れても落ちても起こして通電したら動いた、ディスプレイも大丈夫、というケースは結構あったようだ。

それより問題は中継点側にあったようです。実際に辻さんは自宅の電話が生きていても、ニフティのいつものノードがダウンしていたので、あちこちノードにつなぐことを試みたとのこと。これに備えて、自分の通信ソフトには何か所かのノードの番号を予め登録しておくことがいいと彼は言っています。

(2) このメイリング・リストで安否情報を掲示しているという事実が分からなかった。

被災地でアクセスが可能な方は、安否情報の掲示を始めたことが分かっていたら、あるいはもっと早い時点で、安否情報を流すことが掲示されていたら、もっ

と沢山の方が元気ですよとのメールをご自身で送って下さったと思う。つまり、学会の掲示板にこのような利用のしかたがあることを、これまでにお互いに認識してなかったということです。そして、なによりも、

(3) OR学会にこのようなメイリング・リスト(掲示板)があることが広くは認識されてなかった。ということ、が問題です。

OR学会電子掲示板の拡充を！

したがってこの種のメイリング・リスト(このメイリング・リストという名前はあまりいいとは思いませんので、私は掲示板と呼んでます)をもっと広く利用されるようにすること、緊急時の使い方のルールを作っておくことが望まれます。今回もこういう整備ができていたらもっと早くしかも多くの方の利用があったでしょう。

現在の掲示板は筑波大学の鈴木久敏さんが始められ、今は中央大学情報工学科のサーバにおんぶして中央大学の久保田光一さんがマネージすることにかかなりの労力を提供されており、学会でもインフォーマルに認めているもののようです。これを、学会としてもっと広く上手に利用することをこの機会に真剣に考えていいと思います。

これが読まれるときには終わっているのですが、3月末の広島での春季研究発表会への神戸以東からの交通機関の情報とか、震災の運営への影響とかの掲示にも、この掲示板は使われました。しかし、加入者は学会員だけではないようですし、450名程度とのことで、それらを周知させるためには使えません。多数が加入していたら、またそれなりの問題もありましょう。使い方を間違えると、個人あてにすべきメールが全加入者に伝えられるジャンク・メールになります。

また、加入者側のなにかの障害で届かないと、画面2ページほどのエラーメッセージをつけて全文が戻ってきます。これは避ける手もあるようですが、今回も発信のたびに15通以上も戻ってくるのには驚きかつ困りました。ニフティからインターネットの電子メールを利用しているという家庭の事情が私にはあり、メールボックスの容量があまり大きくないので、一杯になると必要なメールも発信者に戻されてしまいます。そのために戻りのメールを消すのに時間を取られました。

この機会に、緊急通信のありかた、学会としての電子掲示板の持ち方などを、考えてみるきっかけになれば幸いと思い書いた次第です。